

平成20年度事業計画

(平成20年4月1日－平成21年3月31日)

I. 定期学術集会・総会の開催

第55回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催する。

会期：平成20年5月15日(木)～17日(土)
会場：仙台国際センター
会長：笠井 憲雪(東北大学大学院医学系研究科附属動物実験施設)
参加者：約1,000名を予定

II. 通常総会、理事会、評議員会の開催

通常総会(1回)、理事会(3回)、評議員会(1回)を開催する。

III. 定期刊行物の発行

機関誌「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、会員に配布する。

発行年月日	巻	号	備考
平成20年 4月 1日	57	2	一部収益事業
平成20年 4月 1日	57	3 (サプリメント号)	〃
平成20年 7月 1日	57	4	〃
平成20年10月 1日	57	5	〃
平成21年 1月 1日	58	1	〃

IV. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 第20回学会賞受賞者を表彰する。

1) 功労賞(1名)

長 文昭

2) 2007年 Experimental Animals 最優秀論文賞

森 政之、澤下仁子、樋口京一：

「実験用ラットにおける *Lss* 遺伝子の機能的多型」

(2) 2007年日本実験動物学会国際賞の表彰を行う。

・受賞者(8名)

マレーシア : Goh Yong-Meng

シンガポール : Jason So Villano

インド : MJ Jelald Mahesh Kumar

タイ	:	Wilai Thongdeejaroen
中国	:	Yuyuan Ma
フィリピン	:	Mark Pierre S. Dimamay
台湾	:	Li Chao-Chin
韓国	:	Seung Hyeok Seok

- (3) 第21回日本実験動物学会功労賞、安東・田嶋賞ならびに奨励賞の推薦受付、選考を行う。
- (4) 2008年 Experimental Animals 最優秀論文賞の選考を行う。
- (5) 2008年日本実験動物学会国際賞の選考を行う。

V. 委員会等の活動

委員会、ワーキンググループを設置し、それぞれの目的に応じた活動を実施する。

- a. 編集委員会
- b. 学術集会委員会
- c. 財務特別委員会
- d. 疾患モデル委員会
- e. 国際交流委員会
- f. 広報委員会
- g. 動物福祉・倫理委員会
- h. 定款・細則・規程等検討委員会
- i. マウス・ラット感染対策委員会
- j. 教育・研修ワーキンググループ

VI. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議の活動に協力する。
- (2) 社団法人日本実験動物協会、日本実験動物技術者協会、日本実験動物環境研究会およびその他の国内外関連学会・協会の活動に協力する。
- (3) 国際実験動物科学会議 (ICLAS) における活動を継続する。
- (4) アジア実験動物学会連合 (AFLAS) における活動を継続する。
- (5) 米国実験動物学会 (AALAS) など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進する。
- (6) 国立大学法人動物実験施設協議会、公私立大学実験動物施設協議会等との活動に協力する。
- (7) 財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターの活動に協力する。

VII. その他

- (1) 機関誌投稿論文の受付および査読審査を電子化する。(編集委員会担当)

- (1) 平成 20 年度維持会員懇談会を実施する。(財務特別委員会担当)
- (2) 第 1 回疾患モデルシンポジウムを開催する。(疾患モデル委員会担当)
- (3) ワークショップ等を開催する。(教育・研修ワーキンググループ担当)
- (4) 2007 年度実験動物使用数調査を行う。(常務理事会)
- (5) 公益法人化について検討する。